

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	専門1年	
担当教官名	新藤久典	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	人文科学概論領域の学習を通して、日常の言語生活を見直すとともに、施術者に求められるコミュニケーション能力の基盤となる理解する力や、考えたことを人と伝え合うための表現する力を身に付ける。	
到達目標	医療面接の基盤となるコミュニケーションの知識と方法を身に付けるとともに、理療者に求められる理解する力や表現する力をもとに実践的なコミュニケーション能力を習得する。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	単元1 「正しい言葉の使い手」を目指す	
	1 「正しい言葉の使い手」としての呼吸法、発声法	2
	2 美しい言葉づかいを目指して (1) 朗読力を鍛える（詩・散文）	3
	(2) インタビュー力を鍛える	3
単元2 「分かり合う」ために		
(1) 「事実」を伝える	1	
(2) 「思い」を伝える？	1	
(3) 「伝わったこと」を確かめる	1	
単元3 医療者に求められるコミュニケーション能力		
(1) 医療者としてのコミュニケーションの基礎	1	
(2) 医療者としてのコミュニケーションを構成する要素	1	
前期の学習のリフレクション		2

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	単元4 「医療面接」の実際から学ぶ		
	(1) 医療面接例1を分析する		1
	(2) 医療面接例2を分析する		1
	(3) 医療面接例3を分析する		1
単元5 「医療面接の基本技能」を学ぶ			
(1) 「傾聴」の技能①促し(facilitation)		1	
(2) 「傾聴」の技能②繰り返し(reflection)		1	
(3) 「傾聴」の技能③要約(summarization)と確認(confirmation)		1	
(4) 「傾聴」の技能④解釈(interpretation)		1	
(5) 「傾聴」の技能⑤自信(reassurance)		1	
(6) 「傾聴」の技能⑥沈黙(silence)		1	
(7) 「傾聴」の技能⑦明確化(clarification)		1	
(8) 「傾聴」の技能⑧直面化(confrontation)		1	
単元6 模擬医療面接			3
後期の学習のリフレクション			1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	学習の過程で提出を求めるリフレクションの内容を40%、学科試験を60%として評価する。		
履修上の留意点	<p>○教科書に関しては、前時に指定した箇所をしっかりと読み込み、質問事項を整理しておき、授業の中で積極的に質問・発言するよう心がけること。</p> <p>○事前に配布された授業資料は事前に予習を行い、疑問点、質問事項を整理しておき、授業の中で積極的に質問・発言するよう心がけること。</p> <p>○授業中に確認したことは、復習としてしっかりと整理し、必要事項を確認しておくこと。</p> <p>○施術者として、「患者中心の医療」を実現するために、患者を一人の人間としてトータルで理解するために医療面接の能力を高める必要があることを深く自覚し、信頼される施術者となる心構えを固めるよう授業に臨むこと。そのため、予習・復習は自ら進んで行うよう心得ること。</p>		
自己学習の進め方	科目の到達目標を前提として、この科目の学習をとおして身に付けるべきコミュニケーション能力を確かに身に付けることができるように、日常の言語生活を改善・向上させるようとする意識と態度が求められる。		
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002		
参考書/参考資料	丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	石塚聡	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	政治学、行政学、法学および社会学を学びます。	
到達目標	(1) 私たちの生活における社会規範と法について学び、社会の仕組みを理解すること。 (2) 人権に関する基礎的な知識を学ぶこと。(3) 市民にとって最も身近な政治である地方自治を学ぶこと。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1、社会規範と法 法とは何か 生活の中における法 行政権、立法権、司法権	5
	2、日本国憲法における自由と権利 平等に生きる権利 自由権	5
	3、現代の福祉国家 社会権、生存権 環境問題、公害問題	5

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	1、地方の行政と地方議会 地方自治体の執政制度 地方公務員制度		5
	2、住民自治 住民による自治 二元代表制 住民参加		5
	3、地方自治体の仕組み 直接請求と住民投票 条例制定 教育行政と保育		5
実務経験の有無 その活かし方	有		
	立法府の仕事にかかわった経験を活かし、具体的な事例を挙げながら授業を進めます。		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末、各1回の筆記試験を実施して、その平均点を評価とします。		
履修上の留意点	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
自己学習の進め方	復習に重点を置いて学習してほしい。		
使用教科書	なし		
参考書/参考資料	『地方自治論』（有斐閣）		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	漆畑和美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1. 細胞に関する基本的な概念と細胞小器官の機能について学びます。 2. 生体構成成分とその機能について学びます。	
到達目標	理療科目の学習と理解に必要な生命の基本的構造である細胞、生体を構成する物質について理解し、説明または記述できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	ガイダンス 細胞と生物の連続 1. 細胞の発見及び細胞説 2. 細胞小器官の構造とその機能 ①核(染色体と核小体) ②小胞体(粗面小胞体・滑面小胞体) ③ミトコンドリア ④リソソーム⑤ゴルジ装置⑥中心体⑦細胞骨格 3. 細胞膜の構造と機能 4. 上皮組織の機能的分類 前期のまとめ	1 4 6 2 1 1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	1. 生体内に存在する物質の生化学的な概要と機能 ①糖質②脂質③タンパク質・アミノ酸④核酸 (DNA・RNA)・ATP ⑤ミネラル⑥ビタミン⑦水		11
	2. 機能性タンパク質について		3
	後期のまとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末・後期末評価（いずれも筆記試験）の平均点を学年末成績とします。（少数点以下は切り捨て）</p>		
履修上の留意点	<p>学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。 やむを得ない理由があっても、15分を超える遅刻や早退は理療教育実施細則の規定より欠席扱いとなりますが、30分未満でも積極的な授業参加を期待します。</p>		
自己学習の進め方	<p>講義は事前に配布する資料を用いてすすめます。必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。 講義後は、履修した内容に関連する理療の科目の内容も含めて理解に努めてください。自己学習時、理解ができないところがあれば、次の講義までに質問してください。</p>		
使用教科書	教科書はありませんが、教科書の代わりとなる資料を配付します。		
参考書/参考資料	<p>休み時間の生物学（講談社朝倉幹晴著2013年） これだけ生化学（秀和システム 生化学若い研修者の会著2014年） ていねいな生物学（羊土社白戸亮吉他著2021年）</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	江黒直樹	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツに関わる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通じて自身の現状を理解し、自身で改善できる力を養います。	
到達目標	1. 施術者として必要な健康・安全や身体運動について学習し、健康の維持増進のための運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得できる。 2. 工夫された教材（用具等）を活用して身体を動かす楽しさや心地よさが習得できる。	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：15時間
	1. オリエンテーション 2. 体力測定・評価 3. ロコモティブシンドローム測定 4. ストレッチ体操 5. 基礎運動Ⅰ、陸上（歩行）、持久力 6. 視覚障がい者スポーツⅠ（サウンドテーブルテニス）	1 2 1 2 5 4

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	7. 障がい者スポーツ I (ボッチャ)		4
	8. 視覚障がい者スポーツ II (ゴールボール)		4
	9. 視覚障がい者スポーツ III (ブラインドサッカー)		4
	10. 講話(パラリンピックについて)		1
	11. レクリエーションスポーツ(フリスビー)		2
実務経験の有無 その活かし方	有	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ	
		障がい者施設でのスポーツ・トレーニング指導を活かし、1年次履修科目関連する知識の幅を広げます。	
成績評価の方法	<p>医療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。自己の能力に応じた取り組み、各種目の特性ルールを理解し、平常授業で観察記録法により評価すると共にレポートを加味して評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>中間試験は行いません。 天候により使用する体育施設を変更する場合があります。</p>		
自己学習の進め方	<p>自室等でできることは事前・事後、欠かさないように予習・復習をしてください。</p>		
使用教科書	<p>なし (必要に応じて資料等を配布します)</p>		
参考書/参考資料	<p>競技規則集。競技規則の解説。視覚障害者のためのスポーツ指導、障がい者スポーツ指導教本</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	近藤大樹・山田忠	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	骨格系、筋系、神経系及び基礎運動学の概要について、模型及び体表観察を加えて、人体の構造を各系統別に学びます。	
到達目標	1. 骨格系、筋系、神経系の位置・形態・構造を理解して、人体や模型上で確認できる。 2. それらの運動の仕組みについて説明できること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	導入：解剖学 I の年間計画や評価について	1
	(1) 解剖学の基礎	
	ア 解剖学の意義と分類 人体の構成	2
	イ 解剖学的用語 人体の方向と運動	2
	(2) 運動器系①骨格系	
	ア 骨の一般	2
	イ 頭 蓋：脳頭蓋 顔面頭蓋	7
	ウ 脊 柱	3
	エ 胸 郭	2
	オ 上肢の骨：上肢帯 上腕骨 前腕の骨 手の骨	6
	カ 下肢の骨：下肢帯 骨盤 大腿骨 下腿の骨 足の骨	6
	キ 人体各部の主要関節：関節の構造	8
	ク 各関節の運動：関節の運動	7
	(3) 運動器系②筋系	
	ア 筋の一般	2
イ 胸 筋：浅胸筋 深胸筋 横隔膜	4	
ウ 腹 筋：前腹筋 側腹筋 後腹筋	2	
エ 背 筋：浅背筋 深背筋	4	
オ 体幹の筋と運動：片足立位時の骨盤に対する中殿筋第1のてこ	2	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：60時間	
	(3) 運動器系 ②筋系			
	カ	上肢の筋と運動：上腕三頭筋第1のてこ、腕橈骨筋第2のてこ、上腕三頭筋第3のてこ	8	
	キ	上肢の筋：上肢帯筋 上腕筋群 前腕筋群 手の筋	8	
	ク	下肢の筋：下肢帯筋 大腿筋群 下腿筋群 足の筋	7	
	ケ	下肢の筋と運動：つま先立ち下腿三頭筋第2のてこ、大腿四頭筋第3のてこ	7	
	コ	頭部の筋：表情筋 咀嚼筋	2	
	サ	頸筋：胸鎖乳突筋 斜角筋	2	
	(4) 神経系			
	ア	神経系の構成	1	
イ	中枢神経系：脳 脊髄	5		
ウ	末梢神経系：脳神経 脊髄神経 自律神経	8		
エ	伝導路：下行性伝導路（錐体路、錐体外路）、上行性伝導路（感覚・特殊感覚）	4		
(5) 基礎運動学				
ア	運動の基礎（てこと滑車）：まとめ	4		
イ	体の重心と姿勢	4		
実務経験の有無 その活かし方	無			
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。</p>			
履修上の留意点	<p>原則、あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月、11月、2月の3回、形成的評価試験を実施します。</p>			
自己学習の進め方	<p>復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。</p>			
使用教科書	<p>人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科教科用図書編纂委員会編</p>			
参考書/参考資料				

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	松浦久泰、牧邦子	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	胸腹部及び骨盤部の内臓器、感覚器系、内分泌系について、模型及び体表観察を加えて、人体の構造を系統的に学びます。	
到達目標	1. 各内臓器、感覚器の位置・形態・構造を理解し、人体や模型上で確認できる。 2. それらの働きの概要について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	導入：解剖学Ⅱの年間計画や評価について (1) 内臓系 ア 内臓の一般構造 イ 消化器系 ウ 呼吸器系 エ 泌尿器系 オ 生殖器系	1 2 18 9 9 6

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	カ 内分泌系 (2) 解剖学の基礎		6
	ア 人体の構成 (3) 脈管系		7
	ア 血管系		16
	イ リンパ系 (4) 感覚器系		6
	ア 視覚器		4
	イ 平衡聴覚器		4
	ウ 味覚器 エ 嗅覚器 オ 皮膚		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。</p>		
履修上の留意点	<p>原則、あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月、11月2月の3回、形成的評価試験を実施します。</p>		
自己学習の進め方	<p>復習の時間を設け、既習した内容を振り返り、自己の学習状況の確認を行いながら進めてください。</p>		
使用教科書	<p>人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科教科用図書編纂委員会編</p>		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	加藤 麦	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術に必要な人体の機能を理解し、病態生理の理解に必要とされる基本的な知識を学びます。 生理学 I では生理学の基礎、循環、呼吸、消化・吸収、代謝、体温、排泄について学びます。	
到達目標	細胞内器官の基本的な生理作用を説明できる。 血液と循環システムの基本的な生理作用を説明できる。 呼吸の基本的な生理作用を説明できる。 消化・吸収と代謝の基本的な生理作用を説明できる。 体温調節の基本的な生理作用を説明できる。 排泄の基本的な生理作用を説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	ガイダンス (授業計画、評価) 第1章 生理学の基礎 第2章 循環 第3章 呼吸 前期のまとめ 形成的評価 (講評を含む)	1 5 12 8 2 2

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	第4章 消化と吸収		11
	第5章 代謝		4
	第6章 体温		4
	第7章 排泄		7
	後期のまとめ		2
	形成的評価 (講評を含む)		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p> 医療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、前期・後期とも中間期(6月・11月)に形成的評価を実施しますが、単位修得には関係しません。 </p>		
履修上の留意点	<p> 単元ごとに資料を事前配布するので、予習・復習に活用してください。 過去の国家試験頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 国家試験で重要となるポイントはその都度指示するのでしっかり押さえてください。 あはき臨床で必要となる知識についても随時紹介します。 </p>		
自己学習の進め方	<p> 配付資料を基に授業の復習をしてください。人体の構造を理解していないと機能を理解することはできないので、解剖学で学んだ構造の知識が生理学のベースとなります。解剖学と生理学を結びつけて学習するよう心がけてください。 </p>		
使用教科書	<p> 人体の構造と機能 生理学 (改訂第3版) </p>		
参考書/参考資料	<p> からだがみえる人体の構造と機能 (MEDIC MEDIA)、人体の正常構造と機能 (日本医事新報社) </p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	関係法規	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	高橋清志	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の業務に関する法令の各規定、及び業務に係る他の分野の法令の概要を学びます。	
到達目標	1. あはき法の意義について理解できる。 2. あはき法に定める免許行為、業務上の制限や罰則について説明できる。 3. 保健医療と社会福祉の主要な法規定についてあはき法と関連付けることができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	ガイダンス (授業の進め方、評価方法など)	1
	第1章 総論	2
	第2章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	5
	第3章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律における業務 まとめ	6 1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	第4章 罰則		2
	第5章 医療関係法規		5
	第6章 衛生関係法規		2
	第7章 社会福祉関係法規 まとめ		5 1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>医療教育実施細則に基づき、前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。</p> <p>また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。</p>		
履修上の留意点	<p>学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、医療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。</p>		
自己学習の進め方	<p>あはき法に定められている免許行為、制限、罰則などが、なぜ定められているのかを理解することが大切です。将来、施術者として働いていくことを想定しながら学習を行ってください。</p>		
使用教科書	医療と社会（改訂版第7版）		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	麻生弘樹	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	東洋医学の意義・基礎理論・生理観・病の原因について学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の意義を理解し、説明できる。 2. 陰陽・五行の概念を理解し、説明できる。 3. 陰陽・五行に関する法則性を理解し、説明できる。 4. 気・血・津液・精・神・臓腑の生理を理解し、説明できる。 5. 病因（内因、外因、不内外因、三毒説）を理解し、説明できる。 	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1 東洋医学の基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の意義と沿革 3 2. 陰陽論（陰陽の概念と相互の関係性） 4 3. 五行説（五行の概念と相互の関係性、五行の色体表） 8 2 東洋医学の生理観 <ol style="list-style-type: none"> 1. 気・血・津液・精・神の生理 13 前期のまとめ 2	

	後期計 (15週)		後期計：30時間
	後期授業計画	2 東洋医学の生理観 (続き) 2. 蔵象 臓腑の概要 1 各臓腑の位置・形状・生理作用 9 奇恒の腑 2 臓腑間の関係性 2 機気と臓腑の作用 2 3 東洋医学の疾病観 1. 病因論 (内因・外因・不内外因・三毒説) 12 後期のまとめ 2	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	療育教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、前期・後期とも中間期(6月・11月)に形成的評価を実施しますが、単位修得には関係しません。		
履修上の留意点	東洋医学概論は専門用語が多く、発音も特殊です。授業では口頭による説明が多いです。授業の進度も早いので、毎時間ICレコーダー等の録音機器で授業を録音し、授業内容の聞き漏らしの無いよう準備をお願いします。		
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を中心とした学習習慣の形成を期待します。専門用語や概念など記憶すべき内容が多いです。学習ノート作成し、自主学習時に教科書と併せて振り返り学習するよう心がけてください。		
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編 オリエンス研究会著 『基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第7版』		
参考書/参考資料	公益法人 東洋療法学校協会編 教科書検討委員会著 新版 東洋医学概論		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	佐藤智紀	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の基礎と知識、十四経脈の流注、それに所属する経穴の名称・部位・取穴・解剖及び要穴について学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経絡経穴をわかりやすく説明できる。 2. 十二経の名称が順番通り言える。 3. 十四経に所属する経穴名が順番通り言える。 4. 各経絡の流注が言え、それに所属する各経穴の部位・取穴・解剖が言える。 5. 肺経から腎経の要穴（五要穴・五行穴・四総穴など）が言える。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	オリエンテーション 経絡経穴の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1. 経絡経穴の誕生 2. 臓腑の概要及び経絡との関係 3. 経穴の取り方（骨度法・同身寸法など） 4. 経絡経穴の理解に必要な用語 十四経脈とその経穴 <ol style="list-style-type: none"> 1. 督脈 2. 任脈 3. 肺経 4. 大腸経 5. 胃経 6. 脾経 前期のまとめ	1 1 1 2 1 6 6 4 6 12 5

		後期計 (15週)	後期計：45時間
後期授業計画	十四経脈とその経穴		
	7. 心経		3
	8. 小腸経		4
	9. 膀胱経		12
	10. 腎経		6
	11. 心包経		3
	12. 三焦経		4
	13. 胆経		5
	14. 肝経		5
	後期のまとめ		3
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	経穴の暗唱による成績と各学期末試験の成績を併せて学期末評価とし、理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第一位は切捨て)		
履修上の留意点	原則、あはき師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月・11月の2回、形成的評価のため、中間試験を実施しますが、その結果は成績には加味しません。		
自己学習の進め方	経穴の暗唱をしてもらいますが、ただ覚えるだけでなく解剖学で学ぶ筋肉や神経なども併せて学習してください。経絡の流れ、経穴の場所を覚えるため、または取穴するために必要な知識となりますので、他科目と並行して自己学習してください。		
使用教科書	新版経絡経穴概論 日本理療科教員連盟 社団法人東洋療法学校協会編		
参考書/参考資料	『経絡経穴概論 改訂版』 全国盲学校長会編 大阪市立盲学校理療科研究部著		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	浮田正貴・近藤大樹・松浦久泰・山田忠	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩の基本七手技を修得し、これらを適宜組合せて、座位、側臥位、腹臥位等の患者の各姿勢や各種病態に応じて適切且安全に施術ができるように学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理療師として必要な身だしなみ、言葉使い、接遇態度を修得できる。 2. 患者の姿勢や施術部位に応じた適切な位置取ができる。 3. 身体の骨格や筋などの的確な触察ができ、正確な部位取ができる。 4. 基本7手技を適度に組合せて、身体各部に安全且適切な施術が行える。 5. 患者の病態や感受性に合わせて刺激量の調整ができる。 6. 60～80分以内を目途に、全身を通しての施術ができる。 7. 揉みかえし、骨折、転倒などのリスクをよく知り、その予防対策を実践できる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	1 導入 シラバスの説明、適切な身だしなみ、言葉使い、授業中のルール、使用実技室の環境確認等	2
	2 基本7手技の紹介 軽擦法、揉捏法、圧迫法、運動法、叩打法、振せん法、曲手	8
	3 座位におけるあん摩施術 肩上部 肩甲間部 肩甲骨部	14
	4 側臥位におけるあん摩施術 肩上部 肩背腰部 肩甲骨部	24
	前期のまとめ	12

		後期計 (15週)	後期計：60時間
後期授業計画	3	側臥位におけるあん摩施術 上肢 殿部 下肢 頸部・頭部	16
	5	腹臥位におけるあん摩施術 肩背腰部 殿部・下肢 肩上部	18
	6	全身あん摩	20
		後期のまとめ	6
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づいて行います。前期、後期の各学期末に実技試験を複数教官で実施し、その平均点をもって学年末評価とします。</p>		
履修上の留意点	<p>授業毎に基本手技の練習を行い、技術の習得度を確認します。実技室以外では施術を行わないこと。</p>		
自己学習の進め方	<p>履修した内容を自身の下肢などに対して可能な限り練習します。「あん摩練習会」が開催された際は、それに参加することをお勧めします。授業進行に伴い、解剖学、経穴の知識が必要になります。使用経穴や施術する部位に対応した筋や神経、関節など、適宜予習や復習を行ってください。</p>		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	自作術式集		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	小泉貴、滝修、山本浩二、牧邦子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	マッサージの基礎を実技練習により学習します。実技練習は利用者同士でペアになって行い、パウダーを使用した身体各部へのマッサージ施術をします。	
到達目標	あん摩マッサージ指圧施術者として必要なマッサージ施術に関する基礎的な知識と技能を習得し、施術を適切かつ効果的に行う能力を身につけます。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. 導入 (シラバス、実技室使用方法、衛生・リスク管理、身だしなみ、施術用具の取扱い)	2
	2. 肢位、人体の区分、方向、面、マッサージの基本手技の説明	2
	3. 身体各部への施術	
	(1) 前腕のマッサージ	10
	(2) 下腿のマッサージ	8
(3) 手関節のマッサージ	6	
前期のまとめ	2	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	3. 身体各部への施術		
	(4) 足関節		6
	(5) 膝関節		8
	(6) 肩関節		8
(7) 頭部		4	
後期のまとめ		4	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。評価は複数教官による実技試験を行って評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>年間を通して積極的に授業に参加し、施術者としての態度を学んでください。</p>		
自己学習の進め方	<p>1. 上肢の筋力が付くよう日々訓練し、爪と手指の手入れを行ってください。 2. 施術部位の筋や骨など解剖学的特徴を復習してください。</p>		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 (岡山ライトハウス)		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	高橋忠庸、松浦久泰、山田忠、尾崎雅則	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	指圧実技に関する基礎的な知識と施術リスクについて理解し、適切かつ効果的な指圧施術を行う能力と技術を修得します。	
到達目標	リスク管理を理解した上で、安全な指圧施術ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. ガイダンス (授業計画・評価)	1
	2. 身体各部への施術 指圧の基礎・基本手技	5
	背腰部の指圧	16
	臀部の指圧	6
	3. 前期のまとめ	2

	後期計 (15週)		後期計：30時間
	後期授業計画	2. 身体各部への施術（続き） 下肢の指圧（伏臥位） 頭頸部の指圧 腹部の指圧 上肢の指圧 下肢の指圧（仰臥位） 施術所見学実習 4. 後期のまとめ	 8 5 5 6 4 2
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
成績評価の方法	<p>施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。</p>		
履修上の留意点	<p>実技参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。</p>		
自己学習の進め方	<p>授業前に必ず術式確認の予習を行い、授業中は技術訓練に集中できるよう準備してください。解剖学など他科目における履修内容を関連付けて振り返ることを心がけてください。授業中に修正を指導された箇所は特に反復練習を行ってください。</p>		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床（岡山ライトハウス）		
参考書/参考資料	よくわかる指圧テクニック（岡本雅典）、指圧（増永静人）		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	麻生弘樹、加藤麦、小林仁、尾崎雅則	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	衛生操作、用具の取扱い、施術の流れ、生体観察の基本、主な経穴の取穴等、鍼施術の基礎と安全動作を学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術におけるリスクについて説明し、安全に施術することができる。 2. 刺鍼法（管鍼法）について説明・実践することができる。 3. 身体各部の主な経穴を取穴して刺鍼することができる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	1. 年間授業計画、必要用具、評価についての説明	2
	2. 実技室の使い方、手洗い・手指消毒法、実技における諸注意	2
	3. 揉捏、押手、留管、弾入	2
	4. 両手挿管	2
	5. 片手挿管	4
	6. 銀鍼による刺鍼練習器への刺鍼 * 寸3-3番鍼から始め、寸3-2番、寸6-3番、寸6-2番と移行する。	10
	7. 皮膚消毒、オートクレーブ	2
	8. 自分の下肢への刺鍼練習	5
	9. 利用者同士で刺鍼練習を行う際の諸注意	1
	10. 利用者同士で下腿への刺鍼練習	6
	11. 下腿の主な経穴への刺鍼練習	8
	12. 評価	
13. 講評	1	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	1. 前腕部の主な経穴への刺鍼練習		6
	2. 腰部の主な経穴への刺鍼練習		11
	3. 背部の主な経穴への刺鍼練習		6
	4. 肩部の主な経穴への刺鍼練習		6
	5. 頸部の主な経穴への刺鍼練習		4
	6. 頭部の主な経穴への刺鍼練習		2
	7. 胸腹部の主な経穴への刺鍼練習		3
	8. 顔面部の主な経穴への刺鍼練習		2
	9. 膝関節周囲の主な経穴への刺鍼練習		2
10. 指サック、グローブを装着した刺鍼体験		2	
11. 評価			
12. 講評		1	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。施術の流れや刺鍼技術を複数教官による実技試験を実施し、実技評価基準に基づき評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>授業ごとに基本手技の練習を行い、技術の習得度を確認します。実技室以外では鍼を扱わないこと。</p>		
自己学習の進め方	<p>授業進行に伴い、解剖学、経穴の知識が必要になります。使用経穴や刺鍼する部位に対応した筋肉や神経、関節など、適宜予習や復習を行ってください。</p>		
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	新版 経絡経穴概論		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年	
担当教官名	佐藤智紀、山田忠、池田和久、大久保正樹	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	灸施術を行う上で必要な基礎的知識と安全で正確な施灸操作を学びます。	
到達目標	灸施術に関する基礎的な知識と技能について理解し、施術を適切かつ効果的、安全に行う能力と態度を習得できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. 年間授業計画、評価、必要用具、身だしなみについての説明	1
	2. 実技室の環境認知・使い方、手洗い、廃棄物の処理及び清掃について	1
	3. 灸についての基礎知識の習得と、施灸体験	2
	4. 点火器具の操作法	2
	5. 艾の鑑別、過誤やリスクについて	4
	6. 母指頭大、中指頭大、小指頭大の艾炷作成及び点火	18
	7. 前期のまとめ	2

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	1. 米粒大の艾炷作成		8
	2. 台座灸の操作		10
	3. 温灸器具を用いた施灸法		5
	4. 施灸による全身調整法		2
	5. その他灸法の施灸法 (隔物灸等)		4
	6. 後期のまとめ		1
実務経験の有無 その活かし方	有	はり師、きゅう師	
	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床に向けた施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。施術の流れ等を複数教官により実技試験を実施し、実技評価基準に基づき評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>自室等での練習については火を使用した練習はしないようにしてください。 利用者同士の施灸にあたって、十分安全に注意するとともに、担当教官の監督の下で行ってください。</p>		
自己学習の進め方	<p>ティッシュペーパー等、身近にある材料を使用して、艾炷作成時の手・指づくりを行ってください。</p>		
使用教科書	鍼灸実技 基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	はりきゅう基礎実習Ⅱ 教官用指導マニュアル		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	小清水裕子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	対人コミュニケーションにおいて必要とされる知識に基づいて、医療面接の実際を体験的に学習することを通して、臨床場面における理療者に求められるコミュニケーション能力を身に付けることを目指す科目です。	
到達目標	医療面接に必要なコミュニケーションの方法についての知識をもとに、理療者に求められる医療面接の基礎を習得します。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	単元1 医療面接とコミュニケーションの基礎	
	1 オリエンテーション 学修のゴールと医療面接の実際	1
	2 医療面接とはなにか	2
	3 医療面接とコミュニケーション	2
	4 情報活用のスキルとモラル	1
	単元2 医療面接を理解する	
	1 東洋医学における医療面接	2
	2 医療面接の流れ	2
	単元3 医療面接の実際（1）	
1 医療面接の準備	1	
2 医療面接の導入部	1	
3 医療面接の実際	2	
前期のまとめ 学修したことを振り返り伝え合う	1	

		後期計 (15週)	後期計：15時間
後期授業計画	単元3 医療面接の実際 (2)		
	1 質問の方法		2
	2 対話の技法		2
	3 患者の解釈モデル		2
	4 患者への説明と教育		2
	5 特性に応じた面接		2
	6 医療面接の実際と記録		4
	後期のまとめ 学修したことを振り返り伝え合う		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>医療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。学習の段階に応じて提出を求める振り返り(レポート)と学科試験を総合して評価します。後期についても、振り返り(レポート)と学科試験を基本としますが、臨床実習前試験の内容も加味して評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>医療面接の臨床の場での実践におけるコミュニケーション能力を充実させるために、理論を理解し、理論に基づく実践に繋がるように学修することに留意する。また、医療面接の場面を想定した面接のシミュレーション(演習)では、コミュニケーション能力の具体的なスキルアップを目指し、理論で学修した内容が十分に生かせるように留意すること。</p>		
自己学習の進め方	<p>科目の到達目標を目指して、他の科目との関連を意識しつつ、それぞれの単元の学習内容を確かに身に付けることができるように復習を着実にを行うことが求められます。</p>		
使用教科書	丹澤章八編著、鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2002		
参考書/参考資料	丹澤章八編著、改訂版鍼灸臨床における医療面接、医道の日本社、2019		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	石塚聡	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	政治学、行政学、法学および社会学を学びます。	
到達目標	(1) 国行政及び地方行政の歴史と実情を学ぶことによって、日本の行政を理解すること。 (2) 政治や行政にかかわる具体的な学ぶことによって、現実の政治メカニズムを理解すること。 (3) 社会の中の様々な事件、事象を把握すること。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1. 行政の概念 行政とは何か なぜ行政は必要なのか 行政権、立法権、司法権	5
	2. 行政の機能と役割 近代官僚制の歴史 行政国家化現象	5
	3. 現代の福祉国家 社会権、生存権 環境問題、公害問題	5

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	1. 国を動かす仕組み 執政制度 官僚制度		5
	2. 地方行政 地方自治 二元代表制 住民参加		5
	3. 現代社会の課題 メディアの問題 刑事司法		5
実務経験の有無 その活かし方	有		
	立法府の仕事にかかわった経験を活かし、具体的な事例を挙げながら授業を進める。		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。		
履修上の留意点	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
自己学習の進め方	履修前に時事問題の基礎知識を調べておいてほしい。		
使用教科書	なし		
参考書/参考資料	『行政学の基礎』(一芸社) 『はじめての行政学』(有斐閣) 『憲法』弘文堂		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	漆畑和美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1. 遺伝について基本的な概念（メンデルの法則など）を学びます。 2. 免疫について基本的概念を学びます。	
到達目標	1年次学んだことを踏まえ、日常生活や社会、理療科目との連携を図りながら、遺伝現象や免疫に関する基本的な概念や原理・法則を理解し説明できる	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	ガイダンス 1. 遺伝について（概論）メンデルの法則など 2. 遺伝のしくみ ①血液型の遺伝②顕性/潜性遺伝③X連鎖遺伝④母系遺伝⑤多因子遺伝 3. 染色体異常（連鎖と染色体異常） 4. 細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂） 前期のまとめ	1 2 6 2 3 1

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	江黒直樹	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツに関わる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通じて自身の現状を理解し、自身で改善できるようになります。	
到達目標	1. 施術者として必要な健康・安全や身体運動について学習し、健康の維持増進のための運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得できる。 2. 工夫された教材（用具等）を活用して身体を動かす楽しさや心地よさが習得できる。	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	1. オリエンテーション 2. 体力測定・評価 3. ロコモティブシンドローム測定 4. ラジオ体操Ⅰ・Ⅱ・とこしゃん体操、ストレッチ体操等 5. 基礎運動Ⅰ、陸上（歩行） 6. 視覚障がい者スポーツⅠ（サウンドテーブルテニス）	1 2 1 3 4 4

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	7. 障がい者スポーツⅠ (ボッチャ)		3
	8. 視覚障がい者スポーツⅡ (ゴールボール)		3
	9. 視覚障がい者スポーツⅢ (ブラインドサッカー)		3
	10. レクリエーションスポーツⅠ (ゴルフ系)		3
	11. レクリエーションスポーツⅡ (フリスビー)		3
実務経験の有無 その活かし方	有	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者スポーツコーチ 障がい者施設でのスポーツ・トレーニング指導を活かし、2年次履修科目関連する知識の幅を広げます。	
成績評価の方法	<p>医療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。自己の能力に応じた取り組み、各種目の特性ルールを理解し、平常授業で観察記録法により評価すると共にレポートを加味して評価します。</p>		
履修上の留意点	<p>中間試験は行いません。 天候により使用する体育施設を変更する場合があります。</p>		
自己学習の進め方	<p>自室等でできることは事前・事後、欠かさないように予習・復習をしてください。</p>		
使用教科書	<p>なし。(必要に応じて資料等を配布します)</p>		
参考書/参考資料	<p>競技規則集。競技規則の解説。視覚障害者のためのスポーツ指導、障がい者スポーツ指導教本</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	生理学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	山本浩二	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	人体の生理機能に関する基本事項のうち、内分泌系、生殖器系、神経系、運動器系、感覚器系、生体の防御機構について学習し、これを施術に応用する能力と態度を修得します。	
到達目標	1. 神経伝達の仕組み、反射の機能を理解することができる。 2. 運動器、感覚器の構造を理解し、説明することができる。 3. 身体調節や生体防御に関わる化学物質の作用を理解することができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	第8章 内分泌	12
	第9章 生殖・成長と老化	8
	第10章 神経	22
	復習・その他	2
	中間試験	1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	第11章 筋		8
	第12章 運動		13
	第13章 感覚		13
	第14章 生体の防御機構		5
	第15章 身体運動の協調		3
	復習・その他		2
	中間試験		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。</p> <p>また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。</p>		
履修上の留意点	<p>学年末成績が50点以上（59点未満）の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。</p>		
自己学習の進め方	<p>毎回の授業で提示される要点を確実に覚え、配布される問題集に取り組んで下さい。</p>		
使用教科書	<p>人体の構造と機能 生理学 第3版 医歯薬出版</p>		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	病理学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	高橋忠庸	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾病の原因や疾病によって現れる症状と生体の反応を学習します。	
到達目標	病理学の基本的事項を理解し、病理学用語を使用できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計: 30時間
	1. ガイダンス (授業の進め方、評価方法等)	1
	第1編 病理学の基礎 第2編 病因 (1) 病因の一般、内因 (2) 外因 (3) 加齢・老化および小児疾患 第3編 病変 (1) 循環障害	6 15 8

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	第3編 病変 (2) 退行性病変 (変性・萎縮・壊死等) (3) 進行性病変 (肥大・再生・移植等) (4) 炎症 (炎症の概念、原因、炎症の経過と転帰等) (5) 腫瘍 (腫瘍の意義・形態・構造等) (6) 免疫異常 (免疫の仕組み、免疫応答異常、免疫不全等)		5 5 8 8 4
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	医療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。		
履修上の留意点	原則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。		
自己学習の進め方	授業時に確認した病理学の基本的事項を復習し、病理学用語をまとめたノートを作成するよう心がけましょう。		
使用教科書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ (病理学概論) 改訂第7版第1巻 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 (解剖学) (生理学)、病気がみえるvol7.11		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学総論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	小林仁	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	診察の方法（医療面接、全身の診察、局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、徒手検査法）、臨床検査法（尿検査、血液検査）、治療法、臨床心理を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状の特徴から疾患を想起することができる。 2. 解剖学、生理学、臨床医学各論と関連付けることができる。 3. 得られた情報から適切な徒手検査法を実施することができる。 4. 一般検査・臨床検査を説明することができる。 	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：45時間
	第1章 診察の基礎 第1節 意義 第2節 一般的心得 第3節 診察の内容 第4節 記録の目的と内容 第5節 POS 第6節 関連用語の理解 第2章 診察の方法 第1節 医療面接(問診) 第2節～第5節 視診、打診、聴診、触診 第6節 測定法 第7節 神経系の診察	1 2 2 1 1 8 12 8 10

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	佐藤智紀	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あはき臨床で遭遇する頻度の高い整形外科疾患及び神経疾患の病態生理から診断・治療に関する基礎的知識を理解し、あはき臨床における病態把握に必要な知識を学習します。また、麻酔法とペインクリニックに関する基礎的知識を理解し、疼痛管理に必要な知識を学習します。	
到達目標	(1) 運動器疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (2) 神経・筋疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。 (3) その他各科の疾患の病態生理及び診断、治療について説明できる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	1. ガイダンス (授業の進め方、評価方法等) 2. 第1章 運動器疾患の病態生理及び診断、治療 3. 前期のまとめ 4. 形成的評価 (講評を含む)	1 38 4 2

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	1. 第2章 神経・筋疾患の病態生理及び診断、治療		33
	2. 第19章 麻酔科学について		6
	3. 後期のまとめ		4
	4. 形成的評価 (講評を含む)		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p> 医療教育実施細則に基づき、前期、後期の各学期末試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。6月と11月に形成的評価として中間試験を行います。単位修得には関係しません。 </p>		
履修上の留意点	<p> 国家試験出題基準に記載されている疾患を中心に、過去の国家試験頻出ポイントに重点を置いて授業を進めます。 すべてを暗記に頼ることなく、解剖・生理の知識から病態生理を理解して理論的に疾患を捉えてください。 あはき臨床で必要となる知識についても紹介します。 </p>		
自己学習の進め方	<p> 疾患の知識を理解するためには正常な人体の構造と機能を知っている必要があります。そのためには解剖学と生理学の知識が必要となるので教科書で復習してください。 また検査や治療に関する知識は臨床医学総論の教科書も参考にしながら学習してください。 </p>		
使用教科書	生活と疾病Ⅲ (臨床医学各論) (上・中・下巻) 日本ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 (解剖学) (生理学)、病気がみえるvol7.11		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	麻生弘樹	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	東洋医学の臓腑の生理と病理を理解し、東洋医学独特の診察法によって証（治療方針）を導き出せるよう学習します。	
到達目標	1. 各臓腑の生理と病理を理解し、説明できる。 2. 四診法の内容を理解し、活用できる。 3. 証に基づいて適切な治療方針を導き出せる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス（年間授業内容の説明）	1
	1 各臓腑の生理と病理	16
	2 各臓腑の特徴的な病証	10
	3 五臓の相互関係	10
	4 五臓と陰陽との関係	3
	5 診察法の概要	3
前期のまとめ	2	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	6	診察法各論 望診法、聞診法、問診法、切診法	12
	7	弁証法 八綱弁証、経絡弁証、六経弁証	13
	8	治療法 鍼灸治療法、湯液治療法、その他の治療法 後期のまとめ	18 2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。なお、前期・後期とも中間期(6月・11月)に形成的評価を実施しますが、単位修得には関係しません。</p>		
履修上の留意点	<p>国家試験、臨床実習、東洋医学臨床論に關係する大切な科目です。普段から復習やまとめをこころがけ、記憶の定着を目指した学習をしましょう。</p>		
自己学習の進め方	<p>利用者の皆さんには復習を中心にした学習習慣の形成を期待します。専門用語や概念など記憶すべき内容が多いです。学習ノート作成し、自主学習時に教科書と併せて振り返り学習するよう心がけてください。国家試験の過去の問題を解き、自身で解説をつくりましょう。</p>		
使用教科書	<p>日本理療科教員連盟教科書委員会編 オリエンス研究会著 『基礎理療学Ⅰ(東洋医学概論)改訂第7版』</p>		
参考書/参考資料	<p>公益法人 東洋療法学校協会編 教科書検討委員会著 新版 東洋医学概論</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	松浦久泰	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年に続いて経絡経穴学を学び、あはき師として必要な経絡経穴の知識を深め、より確かなものとなるようにします。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 十四経の経穴名が順番に言える。 2. 十四経の流注とそれに所属する全ての経穴の部位・解剖が言え、取穴できる。 3. 要穴（五要穴・五行穴・八会穴・八総穴など）が言える。 4. 主な組み合わせ穴が言える。 5. 奇経八脈の名前と流注の概要が言える。 6. 主な奇穴が言え取穴できる。 7. 経絡経穴の現代医学的研究成果の概要が言える。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1年で学んだ内容の復習	4
	十四経の流注と各経穴	
	心包経	3
	三焦経	6
	胆経	12
前期の総復習	5	

		後期計 (15週)	後期計：30時間
後期授業計画	十四経の流注と各経穴（前期の続き）		
	胆経(前期の続き)		4
	肝経		6
	奇経八脈		3
	奇穴		5
	組合せ穴		2
	経絡経穴の現代的研究		3
	要穴のまとめ		2
	後期および経絡経穴全体の総復習		5
	後期のまとめ		
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	経穴の暗唱による成績と各学期末試験の成績を併せて学期末評価とし、理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。（小数点第一位は切捨て）		
履修上の留意点	原則、あはき師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月・11月の2回、形成的評価のため、中間試験を実施しますが、その結果は成績には加味しません。		
自己学習の進め方	予習・復習ともに教科書を全部覚える気持ちでしっかり読んで下さい。それが難しければ授業中に特に重要なことをノートしていただきますので、まず、それを復習、記憶して下さい。		
使用教科書	新版経絡経穴概論 日本理療科教員連盟 社団法人東洋療法学校協会編		
参考書/参考資料	『経絡経穴概論 改訂版』 全国盲学校長会 編 大阪市立盲学校理療科研究部著		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	高橋清志・吉野徹也	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を修得します。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療面接及び身体診察ができる。 ・ 所定の時間内で主訴に応じたあん摩の全身施術ができる。 ・ 物療機器が安全に取り扱える。 ・ あま指施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：60時間
	1. 導入 (指導計画の説明等)	2
	2. 実践的な施術方法	
	(1) 1年次のあん摩施術の基礎の確認	8
	(2) 全身のあん摩施術	20
3. 臨床入門 (物療機器の操作、臨床実習前試験への対応含む)		
(1) リスク管理、患者への対応	2	
(2) 臨床を見据えた応用施術	20	
4. 前期のまとめ	8	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：60時間
	5. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術		
	(1) 運動器系		17
	(2) 呼吸器系・循環器系		10
	6. 臨床入門（臨床実習前試験への対応を含む）		
	(1) 診察の進め方		10
	(2) 診察から施術の流れ（医療面接・身体診察・施術）		10
	7. 模擬臨床実習		3
8. 後期のまとめ		10	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院での豊富な施術経験を活かし、臨床現場の実際を考えながら授業を進行する。		
成績評価の方法	<p> 理療教育実施細則に基づき、前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前施術実技試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。 </p>		
履修上の留意点	あん摩マッサージ指圧師としての適正な態度にも配慮します。		
自己学習の進め方	<p> 深化型補習への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、基本手技および応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。 </p>		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	滝修、牧邦子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を学習することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な症状・疾患に対して適切かつ効果的にあん摩マッサージ指圧施術を行える。 2. 臨床実習に参加できる知識と技術や態度を身につけている。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（指導計画の説明等） 2. 実践的な施術方法（1年次のマッサージ施術の基礎の確認） 3. 健康医学分野の施術法 4. 産業医学分野の施術法 5. 臨床入門（臨床実習前施術実技試験の医療面接、身体診察を含む） <ol style="list-style-type: none"> (1) リスク管理、患者への対応 (2) マッサージ・指圧を含めた施術 前期のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1 6 6 5 2 10

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	1. 日常遭遇しやすい主な症候、疾患に対する施術 (1) 消化器系に対するマッサージ (2) 婦人科系に対するマッサージ		10
	2. 運動療法		4
	3. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験の医療面接、身体診察を含む) (1) 診察の進め方 (2) 診察から施術の流れ(医療面接・身体診察・施術等)		10
	4. 模擬臨床		3
8. 後期のまとめ		3	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p> 医療教育実施細則に基づき、前期、後期の期末評価の平均点をもって学年末評価とします。後期は臨床実習前施術実技試験を含めた評価を実施します。なお、臨床実習前施術実技試験については法定時間数に記載していません。 </p>		
履修上の留意点	<p> あん摩マッサージ指圧師としての適正な態度にも配慮します。 </p>		
自己学習の進め方	<p> 深化型補習への参加によって、履修した内容を復習します。また、施術部位の解剖学的特徴を理解し、応用手技を正しくかつ安全に行うよう練習します。 </p>		
使用教科書	<p> 手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス </p>		
参考書/参考資料	<p> 人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療科用教科用図書編纂委員会編 </p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	佐藤智紀・池田和久	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての基本的態度、礼節を身に付ける。 2. 主要な症状・疾患に対して医療面接及び身体診察（現代医学的診察を中心に）ができる。 3. 主要な症状・疾患に対して安全かつ適切、効果的な鍼灸施術（鍼灸を中心）に行えること。 4. 臨床実習に参加できる知識と技術を身に付けること。 5. 鍼灸に関わる過誤・副作用について理解し、衛生管理及びリスク管理を身に付ける。 	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：60時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎実技 <ul style="list-style-type: none"> 直刺・斜刺・横刺 17手技 2. 西洋医学的診察法に基づいた鍼灸施術 <ul style="list-style-type: none"> (1)骨盤と腰仙・仙腸関節 (2)背腰部 (3)下腿と足関節 (4)膝関節 (5)肩関節 (6)前腕と手関節 (7)頭頸部 3. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む) <ul style="list-style-type: none"> (1)衛生リスク管理、患者への対応 (2)身体診察（触察、知覚検査等） <p>前期のまとめ</p>	<p>6</p> <p>6</p> <p>8</p> <p>8</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>8</p> <p>4</p>

	後期計 (15週)		後期計：60時間
	後期授業計画	<p>4. 分野別の治療法 健康医学分野、産業医学分野、スポーツ医学分野、老年医学分野</p> <p>5. 特殊鍼法(小児鍼法、皮内鍼法、灸頭鍼法)</p> <p>6. 日常遭遇しやすい主な疾患や症状に対する診察と施術 (1)運動器系(肩こり、頸肩腕痛、腰下肢痛、肩・膝の関節痛など) 12 (2)呼吸器・循環器系(咳嗽、高血圧症など) 6 (3)消化器系(胃炎、便秘、下痢など) 6 (4)婦人科系(月経異常、更年期障害など) 6</p> <p>7. 低周波鍼通電療法 8</p> <p>8. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む) 12 (1)診察の進め方 (2)適応の判定 (3)診察から治療の流れ(医療面接、身体診察、治療等)</p> <p>後期のまとめ 2</p>	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期、後期期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。期末試験においては、刺鍼・施灸技術、診察・施術の流れ、施術部位の取穴法、衛生リスク管理、患者への対応等について評価します。後期期末試験においては臨床実習前施術実技試験の内容を含みます。</p>		
履修上の留意点	<p>実技室以外では鍼や灸は扱わないでください。 臨床実習を想定した実技を行いますので、タオルワークや触れ方にも十分注意を払ってください。</p>		
自己学習の進め方	<p>解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論の内容が含まれるため、事前にと穴法や診察に関連する内容の復習をして実習に臨んでください。</p>		
使用教科書	鍼灸実技 オリエンズ研究会編		
参考書/参考資料	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能(解剖学)		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう応用実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	2年	
担当教官名	加藤麦・嶋正明	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	<p>施術者として必要な東洋医学的鍼灸施術に関する知識と技術を学習するとともに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を身につけます。さらに臨床実習前試験を通して技術や態度等に関する臨床実習参加のための総合的評価を行います。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施術者としての基本的態度、礼節を身につける。 2. 医療面接及び身体診察（東洋医学的診察を中心に）ができる。 3. 病状に応じた選穴・配穴・取穴ができる。 4. 一定の時間内に症状に応じた鍼灸施術（灸施術を中心に）ができる。 5. 鍼灸施術に関わる衛生管理及びリスク管理ができる。 	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：30時間
	1. 年間授業計画、評価、必要用具についての説明	2
	2. 体表の触察と背部兪穴、募穴への施灸	6
	3. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術 (1) 脈状診 (2) 比較脈診 (3) 基本四証 (4) 腹診	10
	4. 臨床入門(臨床実習前施術実技試験への対応を含む) (1) リスク管理・衛生管理 (2) 患者への対応 (3) 医療面接 (4) 身体診察	10
5. 前期のまとめ	2	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	6. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と灸施術		8
	7. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と鍼灸施術 東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（特効穴の運用を含む）		8
	(1) 運動器疾患 (2) 呼吸器・循環器疾患 (3) 婦人科系疾患 (4) 消化器系疾患		
	8. 臨床入門（臨床実習前施術実技試験への対応を含む）		10
(1) 診察の進め方 (2) 適応の判定 (3) 診察から施術の流れ			
9. 施術所見学		2	
10. 後期のまとめ		2	
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	施術所での実務経験を活かし、施術者として必要な知識と態度を理解すると共に、実際の臨床において応用できる施術方法を習得することにより、自分自身の施術が確立できるようにします。		
成績評価の方法	理教教育実施細則に基づき、前期、後期期末に実技試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。期末試験においては、施灸技術、診察・施術の流れ、施術部位の取穴法、衛生リスク管理、患者への対応等について評価します。後期期末試験においては臨床実習前施術実技試験の内容を含みます。		
履修上の留意点	実技室以外では鍼や灸は扱わないでください。 臨床実習に向けた実技を行いますので、タオルワークや触れ方にも十分注意を払ってください。 ペアを組んだ実習では、施術者と患者を想定して実施しますので、施術者としての患者対応を意識した言動を心がけてください。 実習中に不明な点やトラブル等が発生した場合は、自分で判断せず必ず教官に報告し、指示を仰ぐようにしてください。		
自己学習の進め方	解剖学、経絡経穴概論、東洋医学概論、臨床医学総論、理療臨床医学各論で学んだ知識を基に実習を進めていきます。授業の最後には次回の実習内容を予告するので、関連する事項について事前に復習をして実習に臨んでください。また、実習中に覚えていない、あるいは理解できない用語等があった場合は、その日のうちに調べて解決してください。触察、脈診、腹診などの身体診察は、グループ学習による自己学習もできるので、様々な年齢や体型の方で練習し、積極的に経験を積みましょう。		
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編		
参考書/参考資料	新版 経絡経穴概論、東洋医学概論、人体の構造の機能（解剖学）		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	衛生学・公衆衛生学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	高橋 清志	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	健康の保持、衛生学・公衆衛生学の基礎について理解するとともに、社会性豊かな施術者としての心構えと態度を養い、これを施術に応用する能力と技術を修得します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生・公衆衛生について説明できる。 2. 感染症対策、消毒法について臨床と関連付けることができる。 3. 公衆衛生の関係法規を説明できる。 4. 現在の衛生統計・人口統計について説明できる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (授業計画・評価) 2. 衛生学及び公衆衛生学の意義 3. 健康の維持増進と生活 4. 生活環境と公害 5. 生活習慣病と老人保健 6. 前期のまとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 2 8 12 6 1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	7. 感染症対策		12
	8. 消毒法		6
	9. 疫学		2
	10. 衛生統計と人口統計		2
	11. 産業保健		2
	12. 精神保健		2
	13. 母子保健		2
14. 後期のまとめ		2	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。また、6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。</p>		
履修上の留意点	<p>学年末成績が50点以上(59点未満)の場合のみ、理療教育実施細則の規定により再評価試験を行います。</p>		
自己学習の進め方	<p>本科目では、臨床や法律、現代の統計など幅広い分野の知識が問われるので、予習・復習をしていたほうが良いと思います。特に、感染症対策や衛生統計、人口統計ではニュースなどで新しい情報を得られるので意識してみることを推奨します。</p>		
使用教科書	<p>疾病の成り立ちと予防 I 衛生学・公衆衛生学(桜雲会)</p>		
参考書/参考資料	<p>公衆衛生がみえる2022-2023</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床医学各論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	山本浩二	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	主に内臓器疾患についての概要、諸症状、診断、治療などを学習します。	
到達目標	1 現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識を身に着けている。 2 臨床の対象者について、病態把握の上、適応の判断を適切に行うことができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：45時間
	ガイダンス説明 第3章 循環器疾患 第4章 呼吸器疾患 第5章 消化器疾患 第6章 代謝・栄養疾患 第7章 内分泌疾患 復習・その他 中間試験	1 8 9 14 4 7 1 1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	第8章 腎・泌尿器疾患		4
	第9章 男性生殖器疾患		2
	第10章 婦人科疾患		4
	第11章 血液・造血期疾患		6
	第12章 アレルギー・免疫異常		6
	第13章 精神・心身医学的疾患		4
	第14章 耳鼻咽喉科疾患		3
	第15章 眼科疾患		3
	第16章 皮膚科疾患		3
	第17章 感染症		6
	第18章 救急医学		2
	復習・その他		1
	中間試験		1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施しますが、その結果については、学年末の評価には反映させません。</p>		
履修上の留意点	<p>学年末成績が50点以上(59点未満)の場合のみ、理療教育実施細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。</p>		
自己学習の進め方	<p>解剖学や生理学及び臨床医学総論といった科目の知識を再確認する等、科目横断的な学習を行うとともに、復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。</p>		
使用教科書	生活と疾病Ⅲ 臨床医学各論 第5版(盲学校理療教科用図書編纂委員会)		
参考書/参考資料	生活と疾病Ⅲ 臨床医学各論 第4版(盲学校理療教科用図書編纂委員会)		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	リハビリテーション医学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	牧邦子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	疾病や外傷によって生じた障害に対してリハビリテーションを実践することで二次的障害の予防や社会復帰を促すための知識や技術を学びます。また、病院見学実習を通してリハビリテーションの実際を体験します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける各種評価について説明できる。 2. リハビリテーションの対象疾患について説明することができる。 3. 臨床実習で遭遇する疾患の施術に実践することができる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	生活と疾病IAリハビリテーション医学 (概論編)	
	第1章 リハビリテーションの概要	4
	第2章 障害の評価	12
	第3章 リハビリテーションの治療	4
	生活と疾病IBリハビリテーション医学 (基礎運動学編)	
第1章 運動学の基礎	2	
第2章 人体の構造と機能	2	
第3章 姿勢と運動のコントロール	3	
第4章 上肢の運動	2	
第5章 脊柱の運動	1	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	第6章 下肢の運動		2
	第7章 正常歩行と歩行の異常		3
	生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編)・(概論編) 追補版		
	第4章 疾患別リハビリテーション		24
	病院見学実習		1
後期10月中旬に病院見学実習(理学療法室)を計画する。			
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>療育教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。</p>		
履修上の留意点	<p>原則、あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。</p>		
自己学習の進め方	<p>リハビリテーション医学で取り扱う疾患について臨床医学各論や解剖学などを復習してください。国家試験の問題演習は事前に解答してください。</p>		
使用教科書	<p>生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編) 生活と疾病ⅠAリハビリテーション医学(概論編) 追補版 生活と疾病ⅠBリハビリテーション医学(基礎運動学編)</p>		
参考書/参考資料	<p>リハビリテーション医学 第4版(東洋療法学校協会編)</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	浮田正貴	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	現代の医療制度と社会保障制度の基礎的知識、社会性豊かな施術者としての心構えや職業倫理や生命倫理について学びます。	
到達目標	現代医療の課題について述べることができる。 医療制度や社会保障制度について説明することができる。 最新の統計情報を取り扱うことができる。 施術者としての倫理（職業倫理）を踏まえて臨床ができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	1. オリエンテーション	1
	2. 医療倫理	
	(1) 医療倫理・医療教育の倫理	3
	(2) 施術者としての倫理	2
	3. 社会保障制度	
(1) 介護サービス行政	4	
(2) 医療保障	2	
(3) 医療保険の仕組み	2	
(4) 公費負担医療	1	

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	柴田均一	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	あん摩マッサージ指圧の歴史と基礎及び臨床応用について学びます。手技療法による刺激が生体にどのような作用し、どのような反応が起こるのか、期待できる治療効果はどのようなものかについて学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. あん摩マッサージ指圧の基礎知識（あん摩マッサージ指圧の手技の種類や用途）が理解できる。 2. あん摩マッサージ指圧の基本手技が理解できる。 3. あん摩マッサージ指圧の生態へ及ぼす作用が理解できる。 4. あん摩マッサージ指圧の治効理論が理解できる。 5. あん摩マッサージ指圧の施術におけるリスク管理ができる。 	
前期授業計画	前期計 （15週）	前期計：30時間
	ガイダンス（年間授業内容の説明、本科目の臨床実践や国家試験における位置づけ等）	1
	1 あん摩マッサージ指圧の意義と歴史	2
	2 あん摩（基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用）	8
	3 マッサージ（基本手技の名称と機械的要素、各基本手技の適応部位、主な作用）	6
	4 指圧（押圧の仕方による圧法の種類、各手技の適応部位、主な作用）	4
	5 その他の関連する治療法（カイロプラクティック、関節モビリゼーション等）	3
	6 あん摩マッサージ指圧の臨床応用（刺激の大小と生体反応、適応症と禁忌症等）	4
前期のまとめ	2	

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	7	リスク管理 (揉みかえし、骨折、転倒等の予防)	4
	8	基礎理論 (皮膚の受容器、伝導路等)	8
	9	治効理論 (機械的刺激による効果、反射作用を利用した効果)	10
	10	関連学説 (ホメオスターシス、ストレス学説等)	6
	後期のまとめ		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)6月、11月に学習内容の理解度を把握するための形成的評価を実施します。		
履修上の留意点	原則、あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準を考慮した講義を中心に行います。		
自己学習の進め方	今まで学んだ解剖学、生理学、東洋医学概論等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。		
使用教科書	基礎保健理療Ⅱ (保健理療理論) 都立文京盲理療科研究会著 改訂版		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅうの歴史と理論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	はりきゅう理論の基礎知識と術式、治効理論等を学びます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. はりきゅうの基礎知識（はりきゅうの種類や用途）がわかるようになること。 2. はりきゅうの基本手技を理解すること。 3. はりきゅうの治効理論を理解すること。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間授業計画、評価についての説明 2. 鍼の種類と刺鍼方法 3. 灸法の分類 ※上記2と3の内容に、適宜はりきゅうの歴史と意義について触れる。 4. 鍼灸の臨床応用（感受性と刺激量、鍼灸の適応と禁忌） 5. 鍼灸のリスク管理 6. 前期のまとめ 7. 形成的評価（解説含む） 	<ol style="list-style-type: none"> 1 6 5 5 10 1 2

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：30時間
	1. 体性感覚と鍼灸刺激		6
	2. 鍼刺激による鎮痛		5
	3. 鍼灸の関連学説		4
	4. 鍼灸刺激による局所炎症		4
	5. 鍼灸刺激と神経性反応 (自律神経を含む)		4
	6. 鍼灸刺激と体液性反応 (免疫反応を含む)		2
	7. 鍼灸の作用機序に関する最新知見		2
	8. 後期のまとめ		1
	9. 形成的評価 (解説含む)		2
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。また、年度末評価に加味しない形成的評価として、6月と11月に中間試験を実施します。</p>		
履修上の留意点	<p>1年・2年で学んだ経絡経穴概論、解剖学、生理学等の内容を復習し、当該科目で得られた知識と統合させていくことが必要となります。</p>		
自己学習の進め方	<p>1年・2年で学んだ経絡経穴概論、解剖学、生理学等の知識が必要となるため、しっかりと復習して理解していくことが必要となります。</p>		
使用教科書	<p>理療理論 (改訂第10版) 第1巻、第2巻</p>		
参考書/参考資料	<p>毎回、資料を配布しますので、それに沿って進めていきます。</p>		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	東洋医学臨床論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	麻生弘樹	
修得単位数	5単位	
年間授業時数	150時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次、2年次に学んだ西洋医学と東洋医学の知識を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う知識と態度を学習します。	
到達目標	<p>臨床の基礎、各主要症候に対する診察法、施術の適否、最適なあはき施術法について学びます。</p> <p>1. 各主要症候に対し必要な西洋医学的診察法、治療の適否の判断ができる。2. 東洋医学的診察法により証を立て、その症状や所見について説明又は記述できる。3. 適応である場合、症状・疾患に対するあん摩マッサージ指圧、鍼灸施術について治療法を取捨選択し患者に説明ができる。4. 東洋医学における治療原則及び治療法の概要について説明又は記述できる。5. 各疾患の特徴を理解し、病態生理、症状、経過、治療法等を簡潔に説明できる。</p>	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計 : 75時間
	治療総論	10
	現代医学的な考え方	
	東洋医学的な考え方	
	治療各論	10
	伝統・経験的な鍼灸治療	
	現代医学的な鍼灸治療	
	主訴に対する鍼灸療法	
	肩こり、頸肩腕痛	10
	肩関節痛、上肢痛	5
腰下肢痛、膝痛	11	
運動麻痺、高血圧	10	
低血圧、食欲不振	4	
頭痛、顔面痛	5	
スポーツ医学における鍼灸療法	10	

	後期計 (15週)		後期計：75時間
	後期授業計画	治療各論 顔面麻痺、歯痛 眼精疲労、鼻閉・鼻汁 脱毛症、めまい 耳鳴り・難聴、咳嗽 喘息、胸痛、腹痛 悪心・嘔吐、便秘と下痢 月経異常、排尿障害 発熱、のぼせと冷え 老年医学における鍼灸療法 その他	5 5 5 10 10 10 5 10 15
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。また、前期は第1回、後期は第2回の模擬試験を形成的評価とし、成績には含めません。		
履修上の留意点	授業では事前に配布した資料を中心に説明します。問題演習は国家試験や模擬試験の過去問を用います。		
自己学習の進め方	関連科目(臨各・臨総・東概・経穴など)の内容も含めて振り返り学習してください。国家試験の過去問題演習では、解答できなかった単元は教科書を中心に、振り返り学習をしましょう。解答を丸暗記するのではなく、十分に正答理由に納得し、学習をすすめていきましょう。		
使用教科書	臨床理療学 (あはき師用東洋医学臨床論) オリエンス研究会		
参考書/参考資料	東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」		

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床診察学	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	柴田均一	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	<p>施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得します。</p>	
到達目標	<p>臨床推論における医療面接と身体診察の意義を説明できる。 医療面接により各症状に対する病歴聴取ができる。 身体診察により各症状に対する身体所見が取れる。 病態把握によりあはき施術の適否判断ができる。</p>	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業計画・評価） 2. 診察の流れと臨床推論 3. 医療面接と身体診察の進め方 4. 腰痛の診察（神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む） 	<p>1</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>6</p>

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	5. 肩こり・頸肩腕痛の診察（神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		4
	6. 関節痛の診察（総論）		1
	7. 上肢の関節痛（神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		5
	8. 下肢の関節痛（神経系、感覚障害、運動機能障害、自律神経症状を含む）		5
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	前期、後期の各学期末に試験を実施し、その平均点をもって学年末評価とします。なお、前期末は診察一般に関する学科試験を実施し、後期末は整形外科的検査法や神経学的検査法についての実技試験を実施します。		
履修上の留意点	<p>單元ごとに資料を事前配布するので、予習・復習に活用してください。</p> <p>授業は配付資料をもとに進めていきます。</p> <p>この授業で習得した診察スキルを臨床実習で実践してください。</p> <p>あはき施術の適否判断に重点を置いた診察と病態把握を学習するので、現代医学的な診察と病態把握が中心となります。</p>		
自己学習の進め方	あはき臨床で遭遇する可能性の高い筋骨格系及び神経系の疾患について、臨床医学総論と臨床医学各論で学んだことを復習しましょう。		
使用教科書	無		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	臨床取穴学 (生体観察を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	柴田均一	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義(演習を含む)	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な取穴法、選穴法及び配穴法について生体観察を通じて学習します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体表解剖を意識した取穴をすることができる。 2. 施術に用いる選穴法・配穴法を活用することができる。 	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：15時間
	ガイダンス 1. 取穴法の基礎と生体観察(うち、生体観察2時間) (1)経脈の流注と取穴姿勢、取穴方向 (2)切経と取穴技術 2. 選穴法の基礎 (1)選穴法の概要 (2)選穴法の原則 3. 配穴法の基礎 (1)配穴法の概要 (2)配穴法の原則 4. 鍼灸施術形式における配穴法の運用(うち、生体観察6時間) (1)正経治療法	1 1 1 1 1 1 1 8

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：15時間
	4. 鍼灸施術形式における配穴法(うち、生態観察7時間) ※前期続き		
	(2) 奇経治療法		7
	(3) 太極療法		2
	(4) 中医学弁証による治療法		2
(5) その他の施術形式		2	
復習・その他		2	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	<p>理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)評価は、前期、後期に実技試験等を実施します。</p>		
履修上の留意点	<p>配布する資料に沿って授業を進めるので、事前に資料に目を通すようにして下さい。</p>		
自己学習の進め方	<p>総合的な知識が求められるため、解剖学や生理学、経穴概論および東洋医学の復習を心がけましょう。</p>		
使用教科書	<p>新版 経絡経穴概論 第2版 (日本理療科教員連盟・公益社団法人)</p>		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	地域理療	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	高橋忠庸	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な地域社会における理療の役割、保健・医療・福祉のあり方、及び理療の経営についての知識を修得し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得します。	
到達目標	1. 地域社会における理療の役割を理解することができる。 2. 施術所経営や医療保険制度等について説明することができる。 3. 進路に関する情報を収集し、問題を解決することができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計：30時間
	1. 地域社会と理療 (1) 地域社会における理療(保健、医療、介護との関係、理療とその職域) (2) 高齢社会と理療 2. 理療経営の基本 (1) 開業準備(免許申請、開設届、施術所の立地条件、宣伝・広告) (2) 資金の調達(生活福祉資金制度、公的融資制度) (3) 財務管理 3. 施術のリスク管理と賠償責任保険 4. 就労に関する法律、制度 (1) 労働基準法(労働協約、就業規則、最低賃金法、雇用契約) 前期のまとめ	4 4 6 3 3 6 2 2

		後期計 (15週)	後期計：30時間
後期授業計画	(2) 障害者の就労に関する法律、制度		3
	5. 健康保険制度における理療		
	(1) あん摩マッサージ指圧と診療報酬点数(消炎・鎮痛等処置、理学療法)		3
	(2) 療養費としてのおん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの取り扱いとその実務		3
	6. 労災保険におけるあん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの取り扱い		3
	7. 公費負担医療における理療の取り扱い(生活保護における取り扱い)		2
	8. 地域社会における施術費助成制度(施設費払い制度、その他の助成制度)		2
	9. 介護保険制度と理療		
	(1) 介護保険制度の概要		2
	(2) 機能訓練指導員、介護支援専門員の役割		5
(3) 介護保険給付の内容		5	
後期のまとめ		2	
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。評価は、前期末と後期末に課題に対するレポート提出と筆記試験になります。		
履修上の留意点	前期・後期に課題に対するレポートを提出してもらいます。		
自己学習の進め方	普段から、理療業界や時事問題について関心を持つよう心掛けましょう。		
使用教科書	地域理療と理療経営 改訂第8版(岡山ライトハウス)		
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧臨床実習	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	浮田正貴、鈴木格	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実習	
科目の概要 (授業科目の内容)	1年次、2年次に学んだあん摩マッサージ指圧実技の技術を駆使して、診察、評価及び施術適否の判定を行い、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を学習します。	
到達目標	1. 理療師として必要な基本的な心構えと態度(礼儀作法、言葉づかい、身だしなみ、接遇態度など)を身に付け実践できる。2. 設備や備品の管理、清潔の保持(消毒を含む)ができる。3. 臨床実習室にある各種医療機器の操作法について、使用上の注意も含めて理解し、教官の指導のもとで適切に使用できる。4. 他の科目で学習した知識や技能を活用し、適切かつ効果的な診察や治療ができる。5. 施術適否の判定ができる。6. 臨床実習の内容をカルテとして作成できる。7. 施術プランに応じて決められた時間内に一定の効果を出すことができる。8. それぞれの進路にあった知識、技術、コミュニケーションができる。	
前期授業計画	前期計 (15週)	前期計: 45時間
	1. ガイダンス (1) 臨床実習の位置づけと施術室における流れの説明 (2) 環境確認(ベッドメイキング、患者の誘導、後片付けを含む) (3) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導 (4) 利用者による施術と教官による確認と指導	6
	2. 臨床実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術 (1) 再診における問診必要事項の聴取 (2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定 (3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て (4) 利用者による施術と教官による確認と指導	33
	3. 効果判定、評価 (1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価 (2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取	3
	4. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス 利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導	2
	5. 前期のまとめ	1

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	6. 実習協力者を介しての病態像の把握とあん摩マッサージ指圧による施術 (1) 初診・再診それぞれに応じて問診必要事項の聴取 (2) 必要な触診、徒手検査の実行、施術適否の判定 (3) 施術の目標・目的の設定と施術方法の組み立て (4) 利用者による施術と教官によるチェックと指導		35
	7. 効果判定、評価 (1) 利用者と教官による直後効果の判定、評価 (2) 実習協力者からの施術後の実感の聴取		4
	8. パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導、カンファレンス 利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導		3
	9. 後期のまとめ		3
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院での施術経験を活かして、現実の施術機会に用いられる骨系、筋系、神経系のポイントを紹介して、実技科目に応用できる知識を養います。		
成績評価の方法	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	実習参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。		
自己学習の進め方	事前のカルテ確認、病態把握等、臨床実習準備に重点を置き、関連科目の内容も含めて振り返ることを心がけます。		
使用教科書	手技療法の基礎と臨床 岡山ライトハウス		
参考書/参考資料	臨床理療学 (初版)		

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	2. 施術の実践 (4) 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 臨床上的実践、課題発見と自己解決 実習のまとめ		45
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院での施術経験を活かして、現実の施術機会に用いられる治療穴や運動器系、神経系疾患の治療ポイントを紹介して、実技科目に応用できる知識を養います。		
成績評価の方法	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	実習参加にあたっては、事前に清潔な白衣の準備や爪切り、実習中のマスク着用を求めます。		
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、1年次、2年次に学習した西洋医学、東洋医学の復習を心がけましょう。		
使用教科書			
参考書/参考資料			

後期授業計画	後期計 (15週)		後期計：45時間
	2. 施術の実践 (4) 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 臨床上的実践、課題発見と自己解決 実習のまとめ		45
実務経験の有無 その活かし方	有	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師	
	治療院の開業経験を活かして、実際の臨床現場で用いられる治療穴や運動器系、神経系疾患の治療ポイントを紹介して、卒業後の臨床に応用できる知識を養います。		
成績評価の方法	前期、後期の各学期末に当該年度の理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価します。各期末成績の平均点をもって学年末の評価とします。		
履修上の留意点	臨床実習協力者への施術を行うため、通常時以上の感染症対策を徹底して行う必要があります。		
自己学習の進め方	総合的な知識が求められるため、1年次、2年次に学習した西洋医学、東洋医学の復習を心がけましょう。		
使用教科書			
参考書/参考資料			

令和5年度 授業計画書(シラバス)

科目名	理療情報活用	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	3年	
担当教官名	池田和久	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義（演習を含む）	
科目の概要 (授業科目の内容)	情報機器の活用を通じて、文書作成やデータ処理を修得し、各科目の学習に役立てるとともに、情報機器の理解と活用方法を学習します。また、理療分野の情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を身につけます。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と情報機器について理解し、有効に活用することができる。 2. 情報のモラルとセキュリティに関する知識を身につけ、有用性とリスクを理解した上で利用することができる。 3. 理療における個人情報の管理やカルテ入力・管理ができる。 4. 理療に関する情報の収集・処理・発信の方法について理解できる。 	
前期授業計画	前期計（15週）	前期計：15時間
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（指導計画書、授業の進め方等） <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報と情報機器 <ol style="list-style-type: none"> ア 情報の意義 イ 情報化の進展とその影響 ウ 視覚障害者の情報社会への参加と情報技術の活用 エ 情報機器の基本的な仕組みと操作（情報機器の構造と基本的な用語等） オ 視覚障害者の情報社会への参加と情報技術の活用 カ 情報機器の基本的な仕組みと操作（文書作成、表計算等） スクリーンリーダーとその活用、キーボードのタイピングの実際 (2) 情報のモラルとセキュリティ <ol style="list-style-type: none"> ア 情報の意義とモラル（著作権法、ウイルス対策等） イ 情報のセキュリティ管理 2. 前期のまとめ 	<p>1</p> <p>3</p> <p>8</p> <p>2</p> <p>1</p>

	後期計 (15週)		後期計：15時間
	後期授業計画	1. 情報機器の理療への活用 ア 理療における情報機器の活用の目的と意義 イ 個人情報の管理 ウ 電子施術録の管理（カンファレンスを含む） エ 情報システムの理療への応用（SNS等の活用を含む） 2. 後期のまとめ	2 1 1 3 7 1
実務経験の有無 その活かし方	無		
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期末、後期末評価の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 個人毎にPCの使用する環境（外付けキーボード、イヤホン等）を必要に応じて整えてください。 ご自身のPCを使用する場合は、OSを最新の状態にし、セキュリティ対策ソフトを必ずインストールして使用してください。 		
自己学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 学習や余暇活動で毎日PCに触れ、その中で操作上の課題や疑問点等を見つけたら、インターネットで調べたり、身近な方に聞いて、PCでできることを増やしていくよう日々工夫をしてください。また、授業で学んだ操作方法はファイルに整理して、復習操作をしっかりと行ってください。 		
使用教科書	社会と情報 Next		
参考書/参考資料			